

乳幼児理解に基づく評価の充実について



【乳幼児理解に基づく評価の現行の仕組み】

- 現行幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、乳幼児一人一人の理解に基づいた評価を行うこととされている。また、評価を行うに当たっては、以下の点に留意されているところ。
 - ✓ 評価は、乳幼児の発達の理解と指導の改善という両面から行うものであること
 - ✓ 日々の指導と評価は一体になっているものであること
 - ✓ 評価は、指導の改善を図る手掛かりを求めるものであること
 - ✓ 他の乳幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないこと
- 幼児教育においては、評価は、乳幼児の理解に基づくものとしており、この「乳幼児を理解する」とは、一人一人の乳幼児と直接に触れあいながら、乳幼児の言動や表現から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その乳幼児のよさや可能性などを理解しようとすることである。
- また、評価の妥当性や信頼性を高められるよう、
 - ✓ 乳幼児一人一人のよさや可能性などを把握するために、日々の記録やエピソード、写真など乳幼児の評価の参考となる情報を生かす
 - ✓ 複数の教職員で、日々の記録等を共有しながら多面的に幼児を捉えるなどの工夫が重要である。

【保育所等における評価の現状や課題】

- これまでも、保育に当たっては、乳幼児の実態に即して計画を作成・実践し、その計画と実践を振り返って評価し、結果を次の計画に反映させていくことが、保育の質を高める上で重要とされてきた。一方で、こうした乳幼児理解に基づく一連の過程に沿った保育実践は、園によってばらつきがある。
- また、日常的な書類作成業務が負担となっているとの指摘がある中で、作成に時間や労力を要する書類を単に削減することのみを目的とした場合、保育実践の記録として不十分になったり、計画が形骸化したりするなど、保育の質の低下につながる恐れがあることにも留意が必要である。

【幼稚園等における評価の現状や課題】

- 指導の改善に生かす評価を行うに当たり、育みたい資質・能力を育成する観点から自身の指導を振り返ることが十分に行われていないのではないかとの指摘がある。このため、評価の妥当性や信頼性を高める取組としての記録においても、記録が単なる表面的な活動の記述に留まっており、指導の改善に生かす評価の参考となる情報が不十分な記録となっているとの指摘がある。
- 幼稚園に対する調査によると、「写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる」を選択した割合は56.2%であった。また、教育活動の記録方法についての回答状況を「手書き」「ICT」「手書きとICT併用」で分類したところ、43.1%の園が「手書き」であった。

週案 (5歳児9月第2週) (抜粋)

週の保育のねらい (○) と内容 (・)

- 友達とのつながりを楽しみながら、考えを出し合って遊びを進めていく。
- 進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- 運動会の競技や係の仕事を楽しみにする。
 - ・自分の思いを話したり、友達の考えを聞いたりして、遊びを進める。
 - ・運動会でやってみたいことを思い浮かべながら、いろいろな運動遊びに取り組む。



指導計画の改善 (ねらい及び内容の修正の方向性)

- 友達と一緒に、進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- ・エンドレスリレーをしながら、走る気持ちよさや楽しさを味わう。

9月〇日 (〇) の記録 (抜粋)

朝からリレーをやろうと園庭に出ていく幼児たち(ア)。ジャンケンをして勝った幼児と負けた幼児でチームに分かれる(イ)。

A児の掛け声でリレーが始まると、楽しそうな雰囲気「入れて」と幼児がやってくる(ウ)。B児は仲よしのA児がいる列に並ぶが、「やっぱりこっちにする」と、先を走っているチームの列に並ぶ(エ)、幼児たちは一周して次の走者にバトンを渡すと、すぐに列の後に並ぶことを繰り返す(オ)。バトンを受け取ると勢いよく走り出し、自分の前を走る友達に追い付いたり、追い越したりすることで「速く走れた」と感じている(カ)。そのうち、「どっちが勝っているの?」という言葉が聞かれ、友達と競い合って走ることが楽しくなってきたようだ(キ)。順番を待ちながら「今度は〇〇ちゃんと走れる」と喜び(ク)、「負けないぞ!」と腕を大きく振ってみせる(ク)、アンカーたすきは「やってみたい」という思いで走り終わった幼児が近くにいた友達に渡している(コ)。誰がアンカーで走っているのか分からなくなってしまっても、片付けまでエンドレスでリレーが続いた(サ)。

以下のような学びの姿を捉え、右記3点の方向性で指導計画の改善を図る。
週の保育のねらいのうち、2つ目のねらいを修正し、ねらいに向かうに当たり、内容も修正する。

- ・友達を感じながら一緒に走る楽しさを味わってほしい。
- ・人数調整やチーム分けよりもエンドレスリレーを楽しんでいこう。
- ・人数やチーム分けのことに気付き始める幼児が出てくると思うので、しばらく見守っていこう。

<記録した幼児の姿から「学び」を見取る>

学びが芽生えつつある具体的な姿から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、遊びの中の「学び」を見取る

【健康な心と体】、【自立心】、【協同性】、【道徳性・規範意識の芽生え】、【社会生活との関わり】、【思考力の芽生え】、【自然との関わり・生命尊重】、【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】、【言葉による伝え合い】、【豊かな感性と表現】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら取り組んでいる(ア) **【健】【自】**
- ・ジャンケンの勝敗によって、2つのチームに分けられることに気付いている(イ) **【道】【数】**
- ・楽しそうな雰囲気に心が動き、自ら遊びに加わっている(ウ) **【健】【自】**
- ・リレーの様子を目で追って、先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている(イ) **【思】【数】**
- ・リレーのルールが大まかに分かっている(イ)(オ) **【自】【道】**
- ・追い付く、追い越すことで速くなったと捉えている(カ) **【健】【思】【数】**
- ・追い付いたり追い越したりして、友達と競争することが楽しく、走ることに自信がきている(キ) **【健】【自】**
- ・どちらが速いのかについて、どうしたら分かるのか知ろうとしている(キ) **【思】【数】**
- ・走っている友達を目で追ったり、自分の前に並んでいる友達が何人いるか数えたりしながら、誰と走るか見当を付けている(ク) **【思】【数】**
- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと分かっている(ク) **【健】**
- ・目新しさもあり、アンカーたすきに興味をもって、使ってみたいと思っている(コ) **【健】【思】**
- ・スピードを感じたり、一緒に走っている友達との比較によって、速く走れるようになっていくことを実感したりして、走ることが楽しく、もっと速く走りたいと意欲的になっている(サ) **【健】【自】【思】**

資質・能力が育まれていることを確認する

【知識及び技能の基礎】

- ・ジャンケンの勝敗によって、二つのチームに分けられることに気付いている。
- ・リレーのルールが大まかに分かっている。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- ・先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている。
- ・誰と走るか、数を数えるなどしながら見当を付けている。

- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと自分なりに考えている。引き離したり追い付いたりする様子から、距離を捉えて、速さを判断している。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら進んで取り組んでいる。友達と競争することが楽しく、走ることに自信がきている。
- ・走ることが楽しく、もっと早く走りたいと意欲的になっている。

記録と振り返りの充実のイメージ（例）

保護者に配布するドキュメンテーションを作成する際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」又は育みたい資質・能力の観点から自身の指導を振り返り、担任等や管理職とが話し合いながら、多面的に幼児を捉えていくイメージ例。

今週のねらい：友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ

学びを見取る視点

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

or

資質・能力



数量や図形、
標識や文字など
への関心・感覚



社会生活
との関わり

学びに向かう力、
人間性等

A君は電車が好きで、新幹線を製作中。車両同士を連結させるためのいい大きさと長さのある箱を選ぶのも、こだわりポイント！

B君も電車が好きで、図鑑やタブレットで調べていました。A君の新幹線を見て、同じように自分も作り、2人で連結して嬉しそう！

思・判・表
の基礎



思考力の
芽生え



協同性

学びに向かう力、
人間性等

知・技の
基礎

車両の連結部分は、磁石を付けて本当にくっいたり離れたりできるように工夫していました。

別の種別の新幹線も一緒に作るようになったようです。「こっちに押さえておから、テープよろしくね」「そうそう、いいね！」などと声をかけていました。

思・判・表
の基礎



協同性

学びに向かう力、
人間性等



豊かな
感性と表現

ついに完成！2人で抱き合って喜んでいました。「かっこいいじゃん！」と周りの友達からも誉め言葉を掛けられ、嬉しそう！友達に認められることでさらに自信が付きますね！

「今度は、モノレールを作ろう！」「僕もやりたい！」「この箱がいいんじゃない？」と周りの友達も刺激を受けて仲間入り。友達の輪が広がっていきます。

学びに向かう力、
人間性等

今週は、「友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ」ことをねらいとしています。美容院ごっこや新幹線作りなどの遊びが見られました。



新幹線作りは、もともとはA君が、大好きな新幹線を、色や形にこだわってそれらしく作ろうと試行錯誤していたことから始まったのですが、ねらいとの関連が読み取れるのではないかとと思うので、その点から振り返ってまとめてみようと思います。

A君は本当に電車が好きですね。これまで様々なものを自分なりに作ってきた経験を生かして、イメージしている新幹線と、目の前にある空き箱などを比較して、よりふさわしい材料を選んでいるのですね。手で持って走らせて遊ぶのにもちょうど良さそうな大きさの箱を選んでますね。A君は1人で作っていたのですか？



B君も電車が好きで、これまでもよく図鑑やタブレットで調べていました。この時は、A君が新幹線を作っているのを見て、「自分も作りたい！」と作り始め、2人で連結させて嬉しそうでした。



車両を連結させるのに、磁石を使ったのですね。よく気が付きましたね。A君が磁石を使うことを思い付いたのですか？



はい。保護者の方と一緒に幼稚園で行った夏祭りの時に、魚釣りコーナーで磁石を使っていたことから思い付いたようでした。磁石の特徴や仕組みに気付いていたので、連結する様子を表現するのに生かされたのではないかと思います。



A君は、B君が自分と同じように作り始めたことを受け入れ、さらに連結させて楽しんでいることから、友達とイメージを共有しながら遊ぶと、より楽しくなると分かってきているのではないかと思います。それから、別の種別の新幹線を友達と協力し合って作り、完成したら抱き合って喜んでいました。こうしたところに協同性が育まれていることが見て取れます。



2人の新幹線刺激を受けて、他の幼児たちも仲間になってモノレール作りが始まりました。



A君が大好きな新幹線をそれらしく表現することにこだわり、連結を表現するなど試行錯誤しながら作っていたことで、魅力的な遊びになっています。モノレール作りもきっとそれらしく作ろうと思うので、これまでの経験を生かしながら、表現したいことが表せるよう、材料を考えて準備しておこうと思います。